

日本語教育部門活動報告 1－日本語相談－ (2011 年 4 月～ 2012 年 3 月)

加藤扶久美

1 はじめに

日本語教育部門では、2003 年度より毎週水曜日の昼休みを利用して、日本語教育部門の教員が留学生からの日本語に関する相談や質問に答える「日本語相談」を実施している。これは、普段の日本語の授業の中では聞きにくいような、日本語に関する様々な相談に応じるもので、授業の復習、小論文の練習、作文の添削、漢字の練習、スピーチ練習など、多岐にわたる目的で利用された。

本稿では、2011 年度の「日本語相談」の実施状況について報告する。

2 「日本語相談」の概要

日本語相談の概要は次のとおりである。

1) 実施場所

留学生センター 1 階談話室において実施した。

2) 実施期間および実施日時

毎週水曜日の昼休み 12 時から 13 時までの時間を利用して実施した。2011 年度は、前期に 2011 年 5 月 11 日（水）から 7 月 27 日（水）までの 12 回、後期に 2011 年 11 月 2 日（水）から冬季休業をはさんで 2012 年 2 月 8 日（水）までの 12 回実施した。

3) 担当者

日本語教育部門の教員 4 人（加藤、副島、濱田、後藤）が、1 回ごとに交代して担当した。

3 「日本語相談」の実施状況

3.1 「日本語相談」への来談者

相談に訪れた来談者の数を、表 1 「所属別来談者数」にまとめた。

前期は 19 人で、内訳は、人文学部が 4 人、人間発達科学部が 3 人、経済学部が 7 人、工学部が 2 人、その他が 3 人である。後期は 18 人で、人文学部が 6 人、人間発達科学部が 3 人、経済学部が 2 人、理学部が 1 人、工学部が 3 人、その他が 3 人である。全体を通して、文系学部 of 学生の利用の方が多い。

表 1 所属別来談者数

(単位：人)

	人文学部	人間発達科学部	経済学部	理学部	工学部	その他	合計
前期	4	3	7	0	2	3	19
後期	6	3	2	1	3	3	18
合計	10	6	9	0	5	6	37

3.2 相談内容

相談に訪れた学生の相談内容を、表 2 「相談内容別件数」にまとめた。

前期と後期の合計を見ると、「授業に関連した作文やレポートの添削」と「日本語学習に関する質問・

相談」が 29 件で最も多く、全体の 78.4 %を占めている。

表 2 相談内容別件数

内 容	前 期	後 期	合 計
授業に関連した作文やレポートの添削	8	7	15
日本語学習に関する質問・相談	8	6	14
進学・就職活動に関連した質問・相談	1	1	2
その他	2	4	6
合 計	19	18	37

4 小論文の書き方コース

留学生センターでは、留学生センター公式サイトとは別に、富山大学で学ぶ留学生の日本語学習を支援するために日本語学習支援サイト RAICHO を開設している（「日本語教育部門活動報告 2－日本語学習支援サイト RAICHO－」を参照）。この RAICHO サイト内に「小論文の書き方コース」というコンテンツを設け、大学院入学試験の小論文科目のための必要な情報を提供するとともに、実際に練習を重ねるための課題も提示している。

この「小論文の書き方コース」を利用する学生は、まず「日本語相談」に来てコース登録をし、担当教員と相談の上、それぞれに適した内容・レベルの課題を決める。そして次の週までにその課題を仕上げて、「日本語相談」の場で添削・指導をしてもらうという流れになっている。今年度はコースに登録した学生はいなかった。

5 おわりに

「日本語相談」の実施も 2011 年度で 9 年目となり、相談の内容は、大学院入学試験の準備、授業に関連した質問、就職活動に関連した質問、留学生活を送る上での相談と多岐にわたっている。このように、日本語の学習や専門課程での学習・研究に関する質問・相談だけではなく、進学や就職も含めた広い意味での留学生活に関わる相談の場として「日本語相談」が活用されるようになってきており、留学生の学習・研究面を主とした支援体制として有効に機能していると考えられる。

また、「日本語相談」実施日以外にも、修了レポートの添削、スピーチ発表会の指導、談話室での自習中の質問などが個別に日常的になされているが、このようなことは「日本語相談」がきっかけになっていると考えられる。